

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790300404		
法人名	株式会社ケアブレーンズ		
事業所名	なじみ山根(グループホーム)		
所在地	福島県郡山市山根町12-25		
自己評価作成日	平成27年11月22日	評価結果市町村受理日	平成28年3月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaignkensaku.jp/07/index.php">http://www.kaignkensaku.jp/07/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成28年1月21日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今まで暮らしてきた生活を大きく変えることなく生活して頂けるような心地よい生活環境と信頼関係を築き、ご本人の意思の尊重、主体性のある生活ができるよう支援を行っています。  
職員はチームケアを大切に、一人ひとりが目標を持ちスキルアップできるよう、積極的に研修に参加する機会を設け人材育成に力を入れています。  
ご利用者様にとって住みやすい環境・職員にとっては働きやすい環境作りを目指しています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 共用空間が非常に広く、空調管理が徹底され、コタツやソファ等利用者の生活環境に合わせた配置となっている。また、生花や絵画が飾られ、観葉植物等を配置し、利用者が落ち着いた生活が出来るよう工夫されている。  
2. 「安心・安全に」、「家族や地域との連携」、「職員の資質の向上」等、半期毎に重点課題を掲げ、毎月評価し、半期末には総合評価を実施し、重点課題を見つけ解決することによってサービスの向上に努めている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が目につく所に理念を掲示し、ミーティング等で繰り返して確認することで共有し実践に繋げている。ご利用者様が自分らしく暮らしていけるよう支援している。	事業所独自の理念は無く、開所時から法人の理念に基づいて、会議等で繰り返し内容を確認して共有を図りながら、利用者が自分らしく暮らしていけるよう支援している。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念を、職員全員で話し合い作り上げ、理念の共有を図り支援して欲しい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し清掃活動・敬老会・総会に出席させていただくことで交流をはかり地域の方々との繋がりを大切にしている。夏祭りなど大きな行事がある時は近所の方々に参加していただける様声かけをさせていただいている。	町内会に加入し、清掃活動に参加したり、総会や敬老会に出席して交流を図り、地域の一員としての関わりを大切にしている。また、散歩で挨拶を交わしたり、夏祭り等には地域の方々に参加を呼びかけ、交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センター職員のお借りし、認知症の勉強会を開催し職員も認知症の理解を深めたり、事業所交流スペースを使っていたことで、地域の方に事業所内の様子を見ていただき理解していただけるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回定期的に運営推進会議を開催し、事業所の状況を説明し意見を頂いています。頂いた意見、アドバイスはミーティングで検討しサービス向上に活かしています。	運営推進会議は定期的開催され、利用状況や活動報告、制度改正の説明や外部評価結果を報告して、会議メンバーから意見をいただき、運営に反映している。また、避難訓練や行事に参加してもらい、率直な意見をもらって、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村とは計画作成担当者が中心となり連絡を取り協力関係を築いている。地域包括センターとも、日頃より連絡を取り良い関係を築いている。	市担当者との係わりは少ないが、困難事例や他市町村からの利用に対する取扱等について、相談や報告をして協力関係を築いている。また、運営推進会議に介護相談員にも出席してもらい、協力関係を築くようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	経営理念・行動指針に基づき、身体拘束しないケアを研修で学ぶ機会を設け職員一人ひとりに意識付けをしている。	行動指針やマニュアルにより内部研修を行い、職員一人ひとりに意識付けをしている。また、日頃より言葉使いや外部事例等について話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中は玄関の施錠は行っていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を行い繰り返し学ぶ事で、虐待に対する知識を高め絶対にあってはならないことと認識し、小さなことでも見逃さないよう注意し防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	専門家を招いて講習会を開催し学ぶ機会を設けている。ご家族様にも参加していただきおり必要な場合には話し合い、活用できるよう支援する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所側から一方的に話すのではなく、相手の不安な点・疑問点もしっかりと聴き、納得していただいたか確認しながら説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様が意見や要望が言いやすい環境を作るため、ご来訪時には職員より声をかけ話しをさせていただいている。どんな些細なことでも、職員全体で共有し運営に反映させるよう努力している。	利用者や家族からは日常の会話や訪問時、声掛けを行い意見を述べやすい環境作りに努め、運営推進会議等でも意見や要望を聞いて、職員全員が共有し運営に反映させている。また、家族会設立に向け話し合いを行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が現場にいて業務に携わることで、職員と同じ目線で意見や提案を聞く事ができ、運営に反映させることができる。	代表者や管理者は、日々の業務の中で声掛けを行い、職員から意見や要望等を聞いて、運営に反映している。また、毎月労働条件等について、個別面談を行い意見等を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々に応じた勤務条件とし月一回面談をし目標を持って働ける環境作りに努めている。又勤務状況や実績、自己評価も含めた中で給与を検討している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	目標を持つことで個々のレベルを上げ、全職員が同じケアができるよう指導し、ミーティングなどでも勉強する機会をもうけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福島県連絡協議会に加盟し総会などに参加している。なじみ他事業所との情報の交換を大切にしている。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用していただく前に必ず本人と面会し、要望や思いを聴き不安が解消できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用していただく前に必ずご家族様の思いや要望に耳を傾け、信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況・状態を把握し、今一番必要としている支援・サービスを見極め、ご本人の思いを大事にした対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立している部分はやっていただき、できないことを手助けし、一人ひとりに役割をお願いすることでお互いに協力し合える関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様の思いを一番に考え、ご家族様と情報を共有し、いつでも気軽に来訪していただける環境を整え、共に支え合いながら信頼関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚、友人、知人などがいつでも訪問して頂ける様な環境を作り、可能であれば思いのある場所へ外出支援できるよう努めている。	親戚や知人等の訪問や馴染みのある町や名所地への外出など、つながりが継続できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様一人ひとりの性格、日々の状況を把握し職員が関わることでお互い良い関係が築けるよう支援し、見守っていただけるようつとめている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	たとえ契約が終了しても関係を断ち切らず、必要に応じてご本人・ご家族様のお話を聴き経過を見守り支援に努める。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前からの暮らし方や思い・希望に添えるよう努めている。困難な場合は、ご本人とお話しし共に考え納得できるよう検討する。	契約時のアセスメントシートや、日常の会話や家族等の情報から、本人の思いや意向を把握し、サービス担当者会議で検討し、本人本位のケアが出来るよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	長い間のお一人おひとりの暮らし方・生活習慣などをご家族様に聴き、毎日の生活に活かせるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所前の生活情報をご家族様お聞きし、今までと変化することなく過ごしていただけるよう、職員間で情報を共有し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の希望・要望を優先し、ご家族の意見もお聞きしながら、介護支援専門員や担当者を交え話し合い、その都度一番良い支援方法を考え介護計画を作成している。	介護計画作成担当者が、各担当者がアセスメントをした結果をもとにサービス担当者会議で利用者や家族、職員の意見等を反映させ介護計画を作成している。また、身体状態の変化に合わせて、モニタリング結果に基づいた、介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化に気づいた職員は、ミーティングなどに必ず発信し、担当職員が介護計画見直し時に活かしている。また、個別の記録にも必ず残している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々で状況が変化し、今までのニーズと変わった時はご本人・ご家族と話し合い、必要のある支援やサービスに取り組むよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりとお話しすることで地域資源に対する思い入れを聞き、毎日の暮らしの中で心の支えとなる様支援をしていく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族様の希望を聞き、可能な限りご家族様の協力を得ながら安心して医療が受けられるよう支援している。	利用者の身体症状に応じたかかりつけ医を選定し、適切な医療が受けられるように支援している。受診や通院は家族が同行しているが、必要に応じて職員も同行している。受診結果は電話連絡及び連絡帳で情報の共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員から日々の生活の中で気づいた事、少しの状態の変化なども記録に残し看護師に伝えるようにしている。 週に一度、訪看の訪問があるのでその時に伝え的確な指示をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者様が入院した際は、訪問し状態の確認または、病院関係者との情報交換をし安心して治療ができるよう努める。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明し、また状態・状況に変化があった時はご家族、専門職を交え話し合い方向性を確認し合い、チームケアができる体制を整えている。	契約時に重度化対応指針に沿って、重度化した場合や終末期支援について説明し、同意を得ている。また、職員は法人での看取りの研修を受け、家族や医療機関、看護職等との情報の共有を図り、関係構築に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急を想定し訓練を定期的に行い、マニュアルを作成し、慌てることなく対処できるよう職員に周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月一回、昼・夜間など色々な場面を想定して繰り返し訓練を行っている。町内会長・民生委員・地域包括の職員にも実際の訓練を見学していただいている。	防災委員会が設置され、毎月様々な場面を想定した防災訓練を実施している。また、運営推進会議のメンバーに防災訓練を見てもらう等、協力体制の構築を図っている。災害時の避難場所や協力者の依頼も可能な範囲でしている。消防関係者への協力依頼もしている。非常用食料や備品は準備している。	
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	経営理念に基づき言葉・態度・接遇に配慮し、お一人おひとりの人格を尊重しプライバシーを守った対応をしている。	外部研修の資料で接遇研修を実施している。個人情報保護規定による、個人情報の保護にも取り組んでいる。また、職員間でも、利用者の誇りやプライバシー確保のための言葉かけ、対応方法について話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員はご利用者様の思いや希望をお聴きできるような言葉かけをし、自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念に基づき、お一人おひとりの生活パターンを優先し、ご本人の意向を尊重し、希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	地域の理容室に協力していただき、定期的に散髪に来ていただいている。日々楽しい気持ちでいられるよう身だしなみには気をつけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	昼食の米とぎ・味噌汁の下ごしらえなどは、できる限り職員と一緒にしている。同じテーブルで同じ物を食べ美味いと感じながら食事が出来るよう支援している。	利用者は米とぎや野菜の下ごしらえ等、職員と共に行っている。食事は利用者と職員が一緒にテーブルを囲み、和やかに食事の時間を楽しんでいる。また、事業所の敷地内に、地域の協力者と共に畑を作り、栽培した野菜を食事に活用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者様の個々の体調に合わせ、バランス良く食事量を提供し、水分量も重視し食事が楽しんと思っただけよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後お一人おひとりに付き添いご利用者様の状態に合わせた口腔ケアを実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意・便意のある方、訴えのある方はその都度トイレへ誘導している。尿意が無くても定時誘導し自立に向けた支援もしている。	排泄チェック表から排泄パターンを把握し、排泄パターンに応じた個別の支援をしている。その結果、リハビリパンツから布パンツに改善された利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘は訪看と連携を取り指導していただいている。便秘による体調不良・心身の影響を職員に伝え、水分をこまめに取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴を基本としているが、体調やご本人の意志で時間帯・曜日を変えたり、安心・安全に入浴できるよう努めています。また、入浴剤を入れたり楽しんで入浴できるよう工夫している。	利用者の希望に添った入浴支援をしている。浴槽の湯は一人毎に入れ替えをしている。失禁等があった場合は、浴槽の消毒を行い衛生管理に努めている。月末は温泉浴紀行と銘打ち、入浴剤を使用したり、季節に応じてゆず湯や菖蒲湯等の変わり湯も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後は居室にてお昼寝していただいたり、テレビを観ながらうとうとしたりとその時の状況に応じてご本人が気持ち良く休んでいただけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に最新の処方箋をファイリングし、薬に対して成分や効能ができるように努めている。服薬時にはおひとりおひとりに合った飲み方をさせていただき、誤薬をおこさぬよう名前・日付をご本人の前で確認し細心の注意を払っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	小さなことでも得意なことをお手伝いしていただき、役割りを持ちできる事の楽しさ、頼られる事の喜びを生活の張り合いにしている様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別に戸外に出かけるまではいかないが、近所を散歩したりできるだけ希望に添えるように支援している。	日常的な事業所周辺への散歩や、隣家への回覧板届等に出かけている。また、花見や紅葉狩り、季節毎のお祭り見学等の外出や、法人が設置した足湯にも出かけている。2か月に1度は、利用者の希望に添って、レストラン等での外食支援も行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様了承でご自分でお金を所持しているご利用者様はいらっしゃいますが、時間を重ね興味を示さなったりしているので、職員が管理し一緒に使うようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話したり、手紙のやり取りができるように支援している。	ご本人様に電話があったり、電話をしたい時には希望に添えるようにしている。 手紙のやり取りはしていないのが現状です。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日使用する空間は、いつも見慣れて安心できるよう物の置き場所を変えたりせず生活感を出し、また花を定期的に飾り、季節を楽しんだりしている。	広い共用空間は空調が管理され、テーブルやソファが置かれ、畳の居間には炬燵コーナーがあり、明るくゆったりとした環境となっている。また、壁面には行事の写真や作品、絵画等が飾られ、毎月2回花屋が季節の花を生けに来ている。利用者は自分が好む場所で、ゆったりとした時間を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方を隣り同士で座っていただいたり、お一人で過ごしたい時は居室で過ごしたりとその時々の様子をみながら居場所を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	ご自宅で使っていた物を持ってきていただいたりご家族・お孫さんの写真を飾ったりとお一人おひとりの思いを大切にしている。 居室に職員が入る際は、ご本人に声を掛けてから入室している。	居室は日当たりが良く、ベッドやクローゼット等が備え付けられ、利用者は馴染みの調度品や家族の写真を持ち込み、気持ち良く過ごせる環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自由に居室に入出入りし、いつでもトイレに行けるよう表示を設置し、職員が見守り今の生活が維持できるよう工夫し支援している。		